蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議　第２回会議録

招 集 日	平成２７年８月２１日（金曜日）	
開催場所	蓮田市役所　３階　３０４・３０５会議室	
開催日時	開会　平成２７年８月２１日（金）午後５時００分 閉会　平成２７年８月２１日（金）午後７時００分	
出席状況	会　長　　中山　和久	出席　・　~~欠席~~
	副会長　　淺田　章裕	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　中里　幸一	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　廣本　覺	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　田口　真悟	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　吉澤　一徳	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　島田　道太	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　髙橋　恵美子	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　寺澤　亜希子	出席　・　~~欠席~~
	委　員　　黒堀　英俊	出席　・　~~欠席~~
出席職員	【蓮田市まち･ひと･しごと創生本部員】 蓮田市長　中野　和信 副市長　新井　勉 教育長　西山　通夫 総合政策部長　（渡辺　実紀夫） 総務部長　若山　克美 環境経済部長　岩瀬　英幸 健康福祉部長　椿本　美栄子 都市整備部長　細井　盛賢 西口開発部長　岩﨑　弘 上下水道部長　亘　宏邦 会計管理者　加賀谷　武憲 消防長　岡野　和男 学校教育部長　宗方　健二 生涯学習部長　小林　健一郎 議会事務局長　千代　康弘 監査委員事務局長　田口　久雄	【事務局】 総合政策部調整幹　田島　幸則 総合政策部長兼 政策調整課長　渡辺　実紀夫 政策調整課　副主幹　山田　百合子 政策調整課　主任　水沼　哲也
その他 の出席者	総合政策部次長兼広報広聴課長　大久保　忠広 ㈱ジャパン総研（守屋翔太、小林幹夫）	
傍聴者	２名	

資料の確認	（略）
１．開会	（田島調整幹）
２．あいさつ ・中山会長挨拶	（中山会長） 皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。本日は、アンケート調査結果が上がってきましたので、これを基に致しまして、有識者の皆様方の活発なご審議を賜りたいと思いますので、宜しくお願いします。
・市長挨拶	（蓮田市長　中野和信） 皆様こんにちは。只今中山会長さんのご挨拶がありましたように、本日は蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議でございます。お忙しいところ、皆様方にはご出席賜り、大変ありがとうございます。後ほど議事の内容を事務局から説明申し上げますが、第1弾と致しまして、まず市民の方々がどういうお考えを持っているのか、アンケート調査から本事業はスタート致しました。今日は、アンケート調査の状況報告という形になります。どうか宜しくお願い申し上げます。ざっと見させていただきましたが、やはり18歳から40歳未満の方でありますから、まさに今現役世代、或いはこれから社会を支える現役になろうという方々でございます。非常に新鮮なご意見と受け取りました。一つ一つが我々行政の立場では非常に厳しい率直な意見ではありますが、これが蓮田市の今の現役世代の方々のご意見かなと我々は素直に受け止めて、それをどう施策に反映するか、具体化するか、応えていくか、それがまさにこれからの市政だと思っております。本日はアンケート調査が中心という形で、具体的な施策まではご議論いただけないかもしれませんが、どうか宜しくお願い申し上げます。また、今回のことを踏まえまして、初回に申し上げたかもしれませんが、蓮田市は、総合振興計画が平成29年度で現計画を終了致します。次期計画を立て時でもあります。また、いろいろな大きな事業が今、完成までは至っておりませんが、動き出しております。そういった意味ではとても大事な時期であるとも思っております。皆様方の忌憚の無い積極的なご意見をいただきますようお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました。
定足数の確認	（田島調整幹） 会議開催要件の説明、出席者数（10名全員）、会議成立の報告。
３議事 傍聴希望者の確認	（田島調整幹） 傍聴人の確認、傍聴希望者ありの報告。
	（田島調整幹） では、これより先、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。それでは中山会長、どうぞ宜しくお願い致します。
１）第１回市民アンケート調査結果の報告について	（中山会長） それでは規定によりまして私が議長を務めさせていただきます。皆様ご協力のほど宜しくお願いします。 それでは議題の1番、第1回市民アンケート調査結果の報告について、と（２）第2回市民アンケート調査集計結果の速報、これらは密接に関連しておりますた

	め、あわせて事務局よりご報告いただきたいと思いますが、宜しいでしょうか。
２）第２回市民アンケート調査集計結果の速報について	（事務局） 　はい。それではこちらにつきましては、アンケート調査の集計及び分析を行っていただきました株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の守屋研究員よりご説明させていただきます。 （㈱ジャパン総研） 【資料1～2説明】 （中山会長） 　はい、ありがとうございました。只今ジャパン総研さんのほうからご説明いただきましたが、この2つの報告書につきまして何かご質問ご意見ございますでしょうか。こちらのほうは単なるアンケートの報告ということですので、たぶん何もないかと思いますので大丈夫でしょうか。それではこちらは結果ということで、特に手法等に疑問が無ければ、取り敢えずこの報告につきましては、この辺で終わらせていただいて、次の本番のほうに移りたいと思います。それでは（３）の蓮田市の人口分析、これを押さえておかないと、議論も何もできないということですので、事務局から資料を作っていただきましたので、これを基にご説明をいただきたいと思います。すみませんが事務局お願いします。
３）蓮田市の人口分析について	（事務局） 　(3) 蓮田市の人口分析につきましては、お手元に配付致しました資料3をご覧ください。将来の目標人口を設定する蓮田市人口ビジョンにつきましては、推進すべき政策や具体的な事業をお示しする蓮田市の総合戦略の骨子案とあわせて次回以降ご説明をさせていただく予定です。本日は蓮田市の人口分析についてご説明をさせていただきます。 （事務局） 【資料3説明】 （事務局） 　引き続きまして、蓮田市の総合戦略は、国の方針を勘案した形で策定していく必要があるため、国が提示致しました資料4の「まち・ひと・しごと基本方針2015」の全体像について、ご説明させていただきます。 （事務局） 【資料4説明】 （中山会長） 　はい、ありがとうございました。只今資料3、4につきまして、事務局のほうからご説明いただきました。議論に入る前に、資料3、4につきまして、何か委員のほうからご質問ご意見ございますでしょうか。なかなか、特に資料3は厳しいなと、これは大変だという感じが致しますが。皆さんのほうから無いようでしたら私の方から、資料3の11ページの図表-16について、平成17年と平成22年で久喜市が大分変わったというのが見て取れるのですが、一体久喜市は何を行ったのですか。 （事務局）

	総合政策部長の渡辺と申します。宜しくお願いします。久喜市につきましては平成22年3月に合併がございました。合併の関係で多くなっております。 （中山会長） すみません、都内に住んでおり疎いので申し訳ございませんでした。その他何かございませんでしょうか。 （廣本委員） 資料を事前にいただいたので、見させていただきました。大変ご苦労されたなというのが分かるのですが、本当に見たいなと思ったものは、どうしてもこちらでは取れないですよね。例えば出ていってしまった人、流出してしまった人を追いかけて、何で出ていったのかと聞けたら、こんな有難いデータは無かっただろうと。何で出ていったのか分からないのですよね。だから減ってしまう、減ってしまうと、流出する本当のデータが無い、推測するしかないということですよね。では、ここで逆に現れた子育ての支援を多くしたら流出が止まるのか。私は必ずしもそうではないのではないかなと、ちょっと思いました。取り敢えず、今回は18歳から40歳未満の人、特に今の第1調査ではそのような結果なのですが、自分が18歳から40歳の頃を考えてみますと、この頃はどこかに定住しようなんて考えていなかったと思います。自分の人生、自分達家族の人生は会社に引っ掻き回されていたと。すなわち、どこに転勤しろと言われたら、子どもも家族も連れて行ける場所だったら、一緒に行くと。連れていけないなら仕方がないから置いていくということになるでしょう。基本的には40歳位までの歳ですと家族は動きますよ。ですからここのデータにあるように、子育て支援をするための、例えば育児所を作るとか保育所を多くするとか、学童保育の数を増やすとか、そのようなことは非常に重要だと思いますよ。重要だけれども、そのことを行ったら転出止めになるかというと、必ずしも私はならないような気がするのです、この人達は。逆に、このデータからは取れなかったのですが、取ってないのですけれども、年取って、例えば60歳になって退職金貰った金で蓮田に家を買った人というのは転出して行くでしょうか。たぶん、まあ何かあったら出て行く人も何人かいるかも知れませんが、基本的には亡くなるまで蓮田に住むのでしょうね。ずっと住民税を納めてくれる人になるのだと思うのです。ではそのような人を増やすためにはどうしたら良いのかというのはここには何も、基礎データが取れなかった、というのが、ちょっと残念なところがあるなというふうに思いました。 （中山会長） はい、ありがとうございます。確かに資料1が特に40歳未満というような話になって、資料2で若干そこら辺が出て来ていたかなと、あと資料3のところで、第2次産業の人口減ですね。第2次産業の人口減を見ますと、今廣本委員のおっしゃった通りですね。こちらの減がもろに繋がっていると、職場を変えるということですね。逆に廣本委員のおっしゃった通りに60歳以上の方をターゲットに、納税もしっかりしてくださいますし、その辺りで何か打開策を考えてもいいのではないかという、非常に建設的なご意見をいただきました。 （事務局） 先ほど、転出理由がなかなか追えないというお話がございましたけれども、昨年蓮田市では政策研究会議というものを始めておりまして、そこで転出される方に、50人位ですがアンケートを行いました。その結果によれば、やはり就職や進学という理由が多く、廣本委員さんのおっしゃる通り、なかなかこのよ

	うな方を引き止めるのは難しい部分もあるかと思います。男性につきましては、やはり20歳から24歳代は就職が一番大きいと思うのです。女性ですと25歳から29歳の転出が一番多くて、この部分は結婚という理由があると思うのです。 （廣本委員） 　その件でちょっとお聞きしたいことがあるのですけれども、この時のデータでは、就職というのが世帯主の就職なのか、奥様がアルバイトでの就職なのか、分けられないのですよね。だから例えば奥様がアルバイトしたいのだったら地元でないといけないから、仕事が無いと困るけれども、世帯主がご亭主だったらご亭主の場合は都内に行ったり、または転勤で動かされたりという時に、奥様がいくらアルバイトの場所がそのそばにあったとしても、ご主人の転勤として一緒になってついて行ってしまいますよね。そのようなものはこのデータから読み取れませんでしょう。もう一歩深いと良いのですけれどね。 （中山会長） 　アンケートの方法論的な限界もあるのですよね、これは。仕方ないですよね。その中で追跡も行った結果、廣本委員のご指摘の通り、転職、進学、これはもう仕方ないのかなというところですね。 （廣本委員） 　私が面白いなと思ったのは、蓮田ブランドの確立ということを書いている人がかなりいらっしゃる。蓮田の自慢出来るものは何だろうということを調査上取ったことはありますか。蓮田のB級グルメって大体何ですか。 （事務局） 　埼玉県内で行っているB級グルメについては、蓮田市は焼きスパということで、蓮田南小学校の親父の会で参加しています。あと蓮田市でも7月1日からふるさと納税に係る記念品贈呈事業を始めました。20品目でスタートしまして、その中では梨が圧倒的に注文が多い状況になっております。やはり蓮田ですと、梨が多いのかなと思います。 （廣本委員） 　ではふるさと納税のお返しの記念品としては、主に梨になっている訳ですね。 （事務局） 　そうですね。20品目の中でも梨が圧倒的に多い状況です。7割近くが梨になっています。 （廣本委員） 　いいことですね。 （中山会長） 　これは資料2のまだ集計を取っていない箇所にそんな質問がありましたか。蓮田の良いところとか特徴とか、自由回答欄とか。あれば、そちらの集計を拾っていかなければならない。 （廣本委員） 　いずれにしても、自慢出来るものをどんどん作っていかなければいけない。今自慢出来るものを調べ上げなければいけないということが出て来るのだろう

	と思います。 　意外とこのようなこともあるのですよ。東大宮駅から蓮田駅までの間の線路、知っていますか。あそこにずらっとカメラを抱えた人間が並ぶでしょう。あれは、直線があそこにはいっぱいあるのですって。ですから、遠くから狙って写真が撮れる。しかもずっと真っ直ぐだから、全ての車両を全部納められるという、非常に数少ない場所だそうです。そのようなものも、カメラマンがたくさん来るというのであれば来てもらって、B級グルメをたくさん食べて貰い、お金をたくさん蓮田で落として貰うというのも良いことですから、どんどん宣伝すれば良いと思いますよ。 （中里委員） 　残念ながら場所が無いのですよ。民有地なので。当然、地権者の方は迷惑を被っている部分もあるので、行政がなかなかそこへ入っていくというのは、もちろん職員さんも我々も研究はしているのですけれども、今一つそういったものを打ち出していけないというジレンマはあるのですよね。 （廣本委員） 　市で、ある分買い上げてあげるとか。 （中里委員） 　それも良いことですね。 （廣本委員） 　そこに櫓を建てて、写真が撮れる場所だけを買い上げてあげるとか。 （中里委員） 　まず駐車場が無いのですよ。 （田口委員） 　自分のほうも商工会の青年部に入っておりまして、やはり企画の中でヒガハスフェスタというのをやろうかということで、あそこの田んぼの所に足場を建てて、いろいろ計画をしたのですが、結局ちょっと難しいということで、その中で出た話の中では、あそこに来ている鉄道ファンの方に蓮田市内の飲食店の冊子とかそのようなものを配って、撮影し終わった後におなかが空いているでしょうから、帰りに蓮田市内で食べてもらうというのも一つなのかなと思ったのですが。 （廣本委員） 　今日は広報の責任者の大久保さんがお見えになっているので、ありがとうございます。勤務時間を過ぎているのにすみません。大久保さんがせっかくお見えだからお聞きしたいのですけれども、蓮田を宣伝するための、例えばここでいうと記者クラブはどこですか。埼玉県の県政クラブですか。 （大久保広報広聴課長） 　春日部です。 （廣本委員） 　春日部のほうですか。そちらに例えば宣伝のための書類の投げ込み等というのは定期的に行われているのですか。

	（大久保広報広聴課長） まず市役所に集まっていただく定例の記者会見を議会前に行っています。投げ込みと言われる、いわゆるメールやファックスの送信は、イベントなどの大体１週間位前に行っています。 （廣本委員） その定例記者会見というのは、どなたが出てお話をされるのですか。 （大久保広報広聴課長） 定例記者会見は、市長はじめ幹部職員全員出席して行っております。 （廣本委員） やはり面白い話を創りあげないとなかなか記事にしてくれないですよね。先ほどの線路際にずらっとというのは、実は僕がさっきちょっと外へ出て通ったら、ずらーっとカメラマンが並んでいたのですよ。ブルートレインが今日明日で終わるのですよね。そのためにずらーっと並んでいたので、そのお話をちょっと申し上げたのですが、探せば蓮田というのは意外と良いものがあると思うのですよ。例えば私が都心でいろいろと話をしていて、よく有名になる2つのお酒があるのですが、どちらも有名で、1つはレベルの高い日本全国で有名なお酒です。もう1つは都心にお店も出していてかなり有名です。これはちょっと安い価格で大衆向けなのですけどね。でも、どちらも蓮田を蔵元と言わないのですよ。それを言わせようではありませんか。そのように、探せばたくさん蓮田って良いものがあると思います。そのような機会を是非作っていただくようお願いします。 （中山会長） お話がかなり良い方向に進んでいますが、話をちょっと戻しまして、資料3と資料4につきましては、質問はもう宜しいですか。では話が良いほうに進んできました、蓮田の無い物ねだりではなくて、あるもの探しというところで、施策について実際に予算が限られるという中で、国からの交付額が平成26年度の国の臨時交付金と比べて2分の1ぐらいになってしまうのではないかという話も資料4にございました。非常に少ない限られた資源の中で、蓮田市の良い所をどう引き出していくか。施策について、具体的にこのローカルアベノミクスで何を行ったら良いのかのご意見、ご提案、総合戦略に位置づける事業として検討できるようなものをこれから皆さんに伺っていきたいのですけれども、いかがでしょうか。今既に廣本委員からかなり具体的に出たのですが、田口委員、中里委員のほうも実際に今までかなり取り組んでいらっしゃるのがうかがえました。他の委員の方々からも何かこのような提案、行ったら良いのではないかというご意見等ございますでしょうか。それではなかなか言い出しづらいところもあると思いますので、副会長から、青年会議所で何か政策アイデアというようなお考えはないでしょうか。 （淺田副会長） 先日は閉会の言葉のところで、青年会議所の政策コンテストに触れました。全国697青年会議所がある中で各々の活動エリアで実際に地域創生をどういった形で進めて行ったら良いのかという政策コンテストというのを開きまして、全国から136の政策が挙がって参りました。蓮田に活かせるかどうか、これから蓮田に絡めていくことはなかなか難しいかも知れませんが、グランプリを取った

	北海道の留萌青年会議所さんの政策を紹介します。日本の吹奏楽の人口が百万人、1万4千団体を超える吹奏楽の団体があるという中、留萌では800名を超える音楽ホールがあるのと、マーチングの全国大会の基準を満たした30メートル×30メートルの体育館があります。留萌で既存の施設を利用して、食事、移動等を市内のバス会社、タクシー会社等に低料金で車両提供等をしてもらって、市と民間団体とで一緒になって地域資源を活かす滞在型観光等の交流人口について提案したものがグランプリを取ったところでございます。蓮田としてもこれから総合文化会館のハストピアが出来たりとか、隣接する総合市民体育館のパルシーであったりとか、そのようなものを活かしながら滞在型音楽合宿という形で様々な地区の吹奏楽団を入れることも考えられるのではないかなというところでご紹介をさせていただきます。 　それとまたもう一つ準グランプリをとった香川の讃岐青年会議所さんの政策を紹介します。讃岐エリアというと丸亀市です。こちら香川の食事というと、うどん、天ぷら、おいなりさんとか、糖尿病の受療率が全国ワースト2位という所です。それを逆手にとって、讃岐瀬戸内ダイエッ島という所で、島にまず来て、保健指導を受け、島に2日間ほど滞在してもらうというもので、1日目は島をサイクリングで周ってもらい､2日目にはスポーツアクティビティであったり、農業体験であったり、文化体験であったり体を動かしてもらい、3日目にまた健康診断を受けてもらうという形で、こちらも滞在型観光の交流人口政策なのですけれども、準グランプリを取ったところでございます。こちらを行うことによって、市の医療費の削減と、健康寿命を延伸できるところも利点となっておりますし、観光客の皆様がお金をその市に落としてくれることによって、また雇用も生まれてという好循環が非常に好評価を受けまして準グランプリという形で受賞したところでございます。蓮田市でもサイクリングロードといえば市内のほうでサイクリングマップもありますし、そういったものも関連しつつ、人間総合科学大学さんのほうで栄養学も行われておりますので、そういった大学さんと、蓮田市内を回ってもらうという形で、蓮田市に転換できる事業ではないかなというところで、ちょっと大雑把ですけれども説明をさせていただきました。宜しいでしょうか。 （中山会長） 　ありがとうございます。今のワーストというものを探して、それをというのは非常に斬新ですね。さすが準グランプリを取れます。蓮田も何かワーストがあるかも知れません。そこを取っていくというのもありかなと思いました。中里委員のほうから何かございますでしょうか。 （中里委員） 　今日は資料のほうの説明ということだったので、資料を拝見しただけなのですけれども、やはり若い方、子育てを今実際行われている方が、このアンケート調査に出ないですね。何かもっと切実な悩みであるとか、こうなったら良いなとかいうのは、実際に子育てをしている方の直接意見を聞ける場所、そのような機会を設けられたら、アンケートを取るだけではなくて、もっと身近な感覚のものが集約できるのかなという気がしたのですけれども。私達はもうすぐ後期高齢者になってしまうので、後期高齢者が、これから逆に言えばまちづくりの中でどうやってそのポジションとしていられるかというのも、まちづくりの中での観点では、人口という問題に関しては、これから否が応でも増えていく場所ですから、若い人だけではなく、そういった年配の人も住みやすいまち。今会長のほうからワーストを探したらというお話があって、ワーストという言い方とはちょっと違いますけれども、高齢者の割合が埼玉県でもかなり高いと

	いうところはあまり自慢できるところではないのかなというのを恐らく逆手に取れば、そういったことも一つのポイントになるのかなという気はしました。 （中山会長） 　はい、本当に面白いですね。今ちょうどマイクが来たので、せっかくですから順番に流していただければと思います。 （廣本委員） 　先ほどちょっと言いかけて、今の話の継続になるところからお話したいのですが、年寄り、60歳以上の人が退職金で蓮田に家を買ってくれたら、こんな素晴らしい人はいないのではないかという先ほど申し上げた一つの事例ですが、ではこの人は安いから買ったのだろうかと、そのようなわけではないと思うのですよね。ひょっとしたら先ほどのお酒が2つあるよと、酒造元があるよと。そこでおいしいから来た、酒好きだから来たと、僕は思わないです、もしそのような理由で選んだとしたら、それは恐らく水が良いと判断したと思うのです。蓮田は水が良いから酒蔵があるのだと。だから宣伝はそのような宣伝の仕方をするわけですよね。水の良い場所ですよと。蓮田の水道水の半分は井戸水を汲みあげていますよね。良い水を我々は飲んでいる筈なのです。都内と比べたら遥かに美味しい筈ですよね。では、そのような人達について、ここの中で質問に無かったものは何だろうかというと、年寄りですから、当然のように医療はどうですかと。蓮田は整っていますかとか、介護についてはどんなふうにしてもらっていますかとか、デイサービスはどうなのでしょうかとか、そういったことについて良くしていくと、またそういうことを宣伝していくと、そこを永住の地にしようと思う人は必ず増えていく。その人達が持ち家を持てば、その人が彼岸に渡った後、家が残りますから、当然そのご家族が住む、または息子さん娘さんが住むということを繰り返していけるということも、一つの考え方としてあって良いのではないかと。調べる方向性としては、あって良いのではないかなというのがまず一つ。それからもう一つ、先ほど申し上げた、例えばカメラを持って沿線に並ぶ、これは住むために来ているわけではありませんよね。ある意味で蓮田の観光だとか蓮田の売り物に対してある1日だけ遊びに来た、またはある1日楽しみに来た。または宿泊しても良いけど、蓮田は宿泊施設が無いですよね。だから観光地的に蓮田ってなり得るのかどうか非常に難しい所だと思うのですが、観光地になるには歴史的な由緒あるものがあるかどうか。蓮田ってあるはずなのですよね。蓮の田んぼってどこにあるのかと思ったら行田に取られていますよね。せっかく蓮田って良い名前なのに、蓮を売り出す田んぼが無いなとか。でも作れば良いわけですから、そのような作ることが成り立つのかどうかとか、観光で人を呼んできて、その人たちは住むわけではないから夜は帰ってしまうのだけれども、そういった人達がたくさん増え、駅前にたくさん増えるような方法と、それから住んでいただくための手立てと、2つ大きくはあるのだろうなと思います。 （中山会長） 　そうですね、蓮田なのになんで蓮田が無いのだと、名前は本当に貴重な資源ですので、使いたいですね。それでは田口委員お願いします。 （田口委員） 　先ほどの資料1の61ページの、結婚、出産、子育てについての、お子さんがいるというところで、1人の子どもを持っている方が38％で一番多いですね。次にこれから生む人に回答を求めたところ、2人は欲しいと、やはり現実と理想との

	ギャップがあるのかなというところで、49ページの所に子育て支援を充実させれば2人生んでも良いのかなというような結果も出ているかと思うのですが、その辺について具体的にアンケート結果を真摯に受け止めて、どういった形になるか分からないのですが、やはり支援を充実させるというところが一番割合を占めている回答だったので、その辺をどうにかしていかなければいけないのかなということ。あとは1人でも2人でも子どもがいて、子どもを連れて楽しめる場所という所で、やはり市外からも市内の子供を持つ家族が楽しめる場所ということで、例えば既存で行っているイベントでも結構楽しめるイベントがあるのですね。民間団体で行っている蓮田マラソンですとか、我々青年部と会議所で11月3日に行っている雅楽谷の森フェスティバルとか、そのようなものも両団体頑張って告知はしているのですけれども、もっとPRをして、1日子供が楽しめるイベントだということで頑張っていかなければいけないのかなと思ったのが一つですね。あとは蓮田って、廣本さんが言っていましたけれども、泊まる場所が無いということで、今市役所の後ろに黒浜貝塚公園を造っているかと思うのですけれども、蓮田はスマートインターチェンジが開通して、そちらからすぐですので、これから公園ができていく中で、何かその公園の中で縄文住居的なものがあって、そこに泊まれるとか、或いは鉄道ファンの話も出ましたけれども、実は市役所の裏側にも線路が通っておりまして、そこも鉄道ファンがいるのです。その辺を整備することによって、これからの新しい観光資源で子どもを連れて楽しめる場所の展開が希望できる所なのかなと正直思いました。 （中山会長） 　ありがとうございました。本当、黒浜貝塚なんて、我々研究者にとってはすごく有名な所ですので、これをどう楽しめるか、それで鉄道もちょっと見られたりするような。これは蓮田市民でないと、なかなか外部の方に提案できないので。今はホームページでパンフレットなどいくらでも流せますからね。そのようなものを作っていかなければいけないなと。あともう一つは中里委員が今おっしゃったように、個々、一人一人のどういうシーンが欲しいのかって、子育てのところですね。そこを聞ける機会が設けられると、49ページの54.5％の人達のこの声が取れるのかなと、何がしたいのかなというのが分かるかも知れませんね。 　それでは吉澤委員。 （吉澤委員） 　今まで鉄道ファンの方ですとか、酒蔵のアピールですとか、嗜好の部分というのは、お客さんはお金をいくらでも落としてくれると思うので、そのような部分はやはり大事なのかなと思います。あと、資料1の35ページにあるのですが、子どもが楽しめる催しというのが、結構8.2％あるのですね。先ほど田口委員からも、やはり楽しめる場所というのは大事なのではないかとお話がありまして、宮代の新しい村というものがありますね。そちらが結構いろいろなイベントを行っていて、JTBを呼んで婚活を行ったりいろいろなことを行ったりしていて、この間僕がびっくりしたのが、近くに凄い林があるのですね。そこでツリークライミング、何も道具を使わずロープだけで木を昇るということを行っていて、関係者の方にお話を聞いたら、もう即満員ということでした。皆何回も行っていて、子どもがもの凄く楽しんでいるのが聞こえるのですよね。黒浜沼のほうでも実はそのようなものがあるのですよね。黒浜沼の探索だったり、色んな自然と触れ合ったりというものがあるので、実際そういう枠組みがあるのだったら、そこにもうちょっと上乗せして、もう少し楽しめるようなイベントを行っていただけたら、ちょっと違うのではないかなと思います。実際僕の子どもの

	ママ友と話すと、蓮田って楽しめる所がちょっと無いのですよね。だから遠くのでっかい公園へ行くなどのようなことをよく聞くので、そこら辺の充実を、介護などはベテランの方に任せて、我々は子育てのほうを優先していただきたいなというのもあります。 （中山会長） 　どうもありがとうございます。まさに今青年会議所とか田口委員のイベントである雅楽谷の森とか一生懸命行ってますが、それをもうちょっとバージョンアップする、ブラッシュアップされていくということですね。 （田口委員） 　一緒に活動しましょう。 （中山会長） 　そうですね。吉澤委員も、今度9月12日。 （田口委員） 　案はあっても誰かがやらなければいけないのですよね。それが我々の使命だと思っております。 （中山会長） 　ありがとうございます。では黒堀委員。 （黒堀委員） 　アンケートの結果を見たときに、概ね蓮田市を好きな人が多いのだなというのは非常に思ったのですね。ただ、よくよく中身を考えてみると、2,000人のうちの600か700人位の回答が来ているということは、元々蓮田市を好きな人か、よっぽど蓮田市に物申したい人か、どちらかだと思うので、結果としては概ねこうだろうと思うのですね。人を増やすためには、さっき廣本さんにいろいろな意見を言っていただいているのですが、そこに住んでいる人が市を好きになって、もっと周りの人に広めていくという、ここ非常に重要だと思うのですね。先ほど中里さんもおっしゃっていましたが、地域の中でそこをもっと考える機会があった方が良いのかなと。例えば深谷市だと、既に市民ワークショップみたいな形で意見を集約するようなことを開催しているのです。だから、ちょっと非常に回答に難しいのが、行政に対しての一方的な要望の積み重ねだけになってしまうと、これは元も子もない話なので、まずは市民向けのワークショップみたいなもので、市民が蓮田市を好きになって、どうしたらもっと広められるかということを考えられる場があると、非常に良いのかなというふうには思います。それと子育て支援に関しては、私の会社でも、やはり女性については、昔私が入った頃は、女性は結婚するとまず辞めるというのが当然というか、そのような風潮で、続けても子どもができるまでということだったのですが、今ほとんどの女性は、結婚して辞めることは先ず想定していないですし、子どもが生まれても、中小企業は厳しい部分があるのですが、ある程度の企業だと産休・育休制度というのはかなり充実してきていて、たぶん労働人口の減少を考えると、これから先、中小企業もその辺を充実させていかないと、人がもう、労働人口が足らなくなってしまうという状況ですので、そのようになっていくのだろうなと思います。そうすると、やはり子育て支援の所を充実させていくということは、ある程度人口の流出に歯止めがかけられるのかなというふうには思います。

	それからこのアンケートの中で、やはり近くに産業があると良いというのがあって、私は銀行なので、実は企業誘致なども昔県内に進出してきた企業の誘致に関わったことがあるのですが、これは非常に難しい問題で、企業誘致で一番ネックになって来るのは、やはり進出する種地があるかどうかという部分なのですね。今は高虫の工業団地を行っているのですが、これは、5、6年は掛かる話なので、そうするとその種地の部分ですね。市が今買い上げるというのは財政的にも無理がある話ですので、ある程度網掛けをした部分の中で、このような企業があったら、市として柔軟に対応すると。昔企業誘致をした時に、非常にネックになった問題というのが、進出している企業側としては、まず場所ありきなので、このような場所があれば進出考えますというのですが、一方行政サイドとしては、何もわからない、どういうところが来るかわからない状況の中で、そこをこういうふうに緩くしますというのは非常に勇気がいるというか、事実上非常に難しい話なので、卵が先か鶏が先かという話になってしまうのですけれども、そこのところが上手く機能出来るようなことも市内で、行政サイドですけれども協議できると非常に有効なのかなというふうに考えます。 （中山会長） ありがとうございます。規制の話も出てきましたけれども、これはなかなか我々市民にはしんどいかなというところですね。 寺澤委員のほうから。 （寺澤委員） やはり子どもを育てる上で、子育てというのは毎日のことです。もちろん年間にあるイベントとかそういったものは凄く大切だと思うのですけれども、毎日毎日の積み重ねの中で子育て世代が利用できる施設や公園ですとか、そういったものが大変重要になって来るのかなと思います。例えば、公園は前回の時に私の方から提案させていただいたのですが。今母親の中には子供に食べさせるものを大変こだわっている親達がたくさんいます。そのために無農薬のものをインターネットで取り寄せるなど、そういった方達が大変多い中、蓮田市は農地がたくさんあります。農家の方達と協力して、その空き農地を利用して、市民の方達と一緒にものを育てるということを、市の事業として展開していったらどうかと思います。そうすることで、空いている畑に草が伸びてくると、ただ畝って、そこを空き地のままにしておくという農家さんの手間も省けて、育てる方達は無農薬で子どもに安全なものを食べさせられるという良い関係が出来るのではないかと思います。農家さんも丸投げでは無理だと思いますので、行政の力を借りて、橋渡しを行政のほうがしていただけると上手くいくのかなと、アンケートを見ていて思いました。あと先ほど黒浜沼の話とかも出ましたが、私は毎年蛍を見に行くのですね。その蛍の情報もちょっとどこかで聞いて、ではいつ行けば見られるのだろうという、情報が全く無い中、何度か通っていくうちに、あ、大体この位の時期に見られるのだなというのが分かってきました。そのようなものも市としてもうちょっとアピールをして、蛍が見られる市という形で、もちろん蛍を育てていらっしゃる方達がいるので、そういった方達のバックアップもできたら良いのかなと思います。せっかく自然がいっぱいあるので、蛍がこんな身近で見られるというのが結構周りで知られていないので、そのようなものもアピールの一つになるのかなと思います。 （廣本委員） ちなみにどちらですか。

	（寺澤委員） 　環境センターの裏のほうで見られるのです。行ってみてください。もう今年は終わってしまいましたが。 　あと、先ほどふるさと納税の話が出ました。一番人気は梨だという話があったのですけれど、私の住んでいる周りの梨を育てている方達が次々と辞めていく現状の中、ちょっと疑問に思ってしまいました。市として梨を全面的に押し出したいのであれば、梨を育てている方達との折り合いというか、そのような話し合いはどうなっているのかなと思ったのです。ふるさと納税の何個かある記念品の中で梨の注文が一番多いということなので、梨を育てている吉澤委員さんもいらっしゃるのですけれども、周りでは本当に高齢化が進んでいて、梨農家は大変苦しいということです。息子さんなどに継がせないで木を切ってしまうというお家が多いのです。梨は今白岡市に結構取られてしまっていると思うのですけれども、蓮田市で梨を売っていくためには、辞めていかないように考えていかなければいけないと思います。 （中山会長） 　ありがとうございました。農地の話は本当に梨も含めてかなり可能性がありそうですよね、ここは。本学も今年から農場を借りて行わせていただいていますけれども、かなり可能性がありますので、今後我々も現実に動いていきたいなと思います。 　続きまして今回初めて髙橋委員のほうからお願いしたいと思います。 （髙橋委員） 　すみません、前回は欠席して申し訳ありませんでした。今の農地の件と、そのことに併せて、こちらのアンケートにもあったのですが、3世代同居というものに興味もあるというアンケート結果がありました。私の周りでももちろん60歳を超えて、もう会社を引退なされて、孫とかも来てくれるためには、自分の家に土地が無いから農地を借りて、皆さん手広く凄い畑を行っていて、今年はこれがどうだった、ああだった。本当に私もいろいろいただきまして、有難い思いをしているのですけれども、そのようなことも実際行っていらっしゃるのですね。だから空き農地がもしあるのであれば、もうちょっと宣伝して、わざわざお金を払って遠い所まで畑を借りている方もいらっしゃるので、そういうのも宣伝すれば、他所からのリタイアされた方が蓮田に土地を求めていただいて、そこで生活をしていただいて、楽しみとして畑も一緒にできますよというようなことがあったら、ちょっと希望が持てるかなと思いました。 　そのことに伴いまして、やはり医療関係ももうちょっと充実してほしいと思うのと、自分もどんどん年を重ねていって、子どもに迷惑をかけずに生きて行きたいなと思うところで、介護ですね。やはり介護を充実させられる施設。今民間のほうで結構増えているのですけれども、やはり一般人としてはなかなか入れるような金額ではないので、出来るだけ割安でというような施設を、出来れば作っていただいて、そこに子育て中のまだ小さいお子さんがいらっしゃる方がヘルパーさん等の資格を取って、そこで働きながら、そこに子どもを預けられる施設も一緒にということになれば、3世代も働けてというような、何かちょっと広がっていくのではないかなと思ったのですけれども、理想ですが。 （中山会長） 　ありがとうございます。 　では最後になりましたが、県のほうから島田委員、お願いします。

	（島田委員） 　埼玉県職員の島田です。少し話が役所的になってしまうかも知れませんが、お許しいただきたいと思います。アンケート結果にも触れさせていただきたいと思うのですが、第1回のアンケートの38ページで、蓮田市への愛着というところが、私も非常に興味を持って見まして、愛着を感じる方が7割ということでかなり高いということは良いことだと思いますし、非常に将来に期待が膨らむのかなと感じました。ただそれよりも、愛着を感じない方が少ないということのところをもう少し大事に見ていった方が良いのかなと思いました。蓮田市は非常に総合的に住み易いというように市民が捉えているということは確かではないかなと思いますし、仮に、これは若い世代のアンケート結果で、一旦は就職や進学で東京圏とかに出られたとしても、蓮田に愛着があるということで、いずれは戻ってくる可能性があると、そういうところをもっと何か出来るのではないかなと思っております。 　もう一つ、アンケート2のほうにも同じように住み続ける予定かというところの説明がありまして、これは24ページなのですけれども、これも同じような傾向になっていますよね。住み続けるとした方が大体7割ということです。逆に転居をするといった方が10％を切っているのですね、8.9％しかいないと。ということは非常に蓮田市への愛着というのが高いということが言えるのではないかなと思います。いろいろな事情はあるとは思いますが、10ページのところに通勤通学時間という調査結果もありますが、1時間以上の方が29.5％、約3割いらっしゃるのですね。かなり時間をかけて遠い所まで通勤されている方が蓮田にお住まいになっているにもかかわらず、蓮田市に住み続けたいと言っているということは、蓮田市として自信を持っていい部分ではないかというふうに思っております。これは両方の結果は是非アピールできる点として活用していったら良いのではないかなと感じました。 　もう一つは廣本さんにもいろいろおっしゃっていただきましたけれども、シティセールスというところに着目をしました。これはアンケート2の40ページになります。一つは蓮田ブランドというお話がございましたけれども、その上に地域資源の活用・発掘というのも30％と、たくさんの方が答えていらっしゃる。これは非常に関連した項目になっていると思います。そのような意味では非常にここの部分は蓮田市にとって力を入れるべきところではないかなというのが見えてくると思っております。今シティセールスにつきましては、県内の各自治体も一生懸命取り組んでおります。これは地方創生の流れの中で当然のことだと思いますが、近隣の市町村では白岡市さんが昨年度計画を作って、今年度から実際に具体化をして取り組んでいらっしゃいます。その先の久喜市さんは一昨年、組織としてシティープロモーション課という課を立ち上げて、非常に積極的に取り組んでいるという状況がございます。宇都宮線沿線は、上野東京ライン、また圏央道の開通と、非常に注目度が高い利便性の高い地域ということで、今がチャンスというふうに久喜市さんとか白岡市さんは捉えて、積極的に市を売り込もうということで、先端組織を作ってPRをどんどんしていく実行段階に入っています。そのような中で、私の感じとしては、蓮田市さんは少し弱いのかなというふうに思っておりますので、ここのところに力を入れていくべきではないかなというふうに思っております。そういった中でブランド作りというのは非常に難しい面はあるのですけれども、先ほどおっしゃいましたが、地域には資源というのがたくさんあるという中で、これを市民の皆さんと一緒に一生懸命発掘をするという作業がやはり必要だといわれております。いろいろな資源が転がっているものを全て掘り起こして、それをどうやって活用していくかということを皆さんで掘り下げて検討して磨きをかけていくということ

	によって、自ずとブランドというものが出て来るといわれています。そのような作業がまだ蓮田市さんでは充分されていないのかなと思っておりますので、そういった視点で是非シティセールスに取り組んでいくのも一つの方法ではないかなと思います。 　ちょっと長くなるのですが、もう一点、県の立場みたいなところで、広域的な視点で一つご提案をさせていただきます。私は利根地域振興センターというセンターで、管内9市町、非常に多くの市町を所管しています。北は行田市から南は蓮田市さんまでを所管しているセンターでございまして、いろいろな地域性がある利根地域なのですけれども、管内の企画担当の職員の方と我々センターの職員で、地方創生に関していろいろな議論を今行っております。今年の1月に立ち上げまして、昨日ちょうど事務局の水沼さんがメンバーで参加していただいて6回目の会議を行なったのですが、その中で一つの課題として、近隣他市町村との連携、または県と市との連携というものでも良いと思うのですが、地方創生については単独の市町で取り組むだけではなくて、周辺の自治体、または何かしらの繋がりがある自治体と連携をして取り組んでいくということも非常に効果的ではないかというふうに言われております。これは国の総合戦略というのがすでに出ている訳ですが、その中の基本目標の中でも地域間連携というのがテーマになっております。もう一つは今日まさに説明があった中にも入っておりますが、資料4のⅢの地方創生の深化に向けた政策の推進の4番のところで、最初にまちづくり・地域連携が出てきます。ここの部分なのですね。地域連携、まあいろいろな連携という形があると思いますが、我々の議論の中では市町間の連携という形で考えました。もう一つは先日8月4日に国の地方創生本部のほうで決定された、国の新型交付金、来年度の国の地方創生に関する自治体への交付金の関係が決定されたのですけれども、その中でも地域間連携というのがキーワードになっております。特に交付金を充分活用して地方創生を行なっていく。非常に財政状況に厳しい市町にとっては、国の財政支援というのは非常に大事だと、そういう中で国のほうは地域間連携というのがキーワードですよと、ずっと言ってきている。そこにやはり着目をしていくということが大切かなと思っております。そのような中で、特にJR宇都宮線沿線の蓮田市さん、白岡市さん、久喜市さん、ここは先ほど申し上げたように非常に利便性の高い地域ということで、県内でも非常に注目をされている地域だと、この間もりそな銀行さんとお話をする機会があったのですが、一番注目をされていますよと銀行さんはおっしゃっていました。そのようなことで、企業誘致等々含めて非常に可能性のある地域ということで、このチャンスを逃さないようにした方が良いというふうに思っております。会議で市町のメンバーの皆さんと議論をしていった中では、特に定住促進という部分、魅力の発信を蓮田市さんももちろん白岡市さんも久喜市さんもそれぞれ単独で行うのですけれども、連携してやれることがあるのではないか、または連携して行った方が効果的なこともあるのではないかという提案がありました。例えばということなのですが、先ほど来、子育てというところの話題が出ておりますが、例えば子育て世代をターゲットとした情報誌であるとか、遊び場マップであるとか、そういったものを蓮田市さん単独で作るのではなく、3市で連携して広域的なものを作りましょうというのも非常に効果的だと思うのです。そうすれば。例えば都内とか県南のほうに在住している方が一戸建てを宇都宮線沿線で求めたいというふうに考えているときに、そういった方達は蓮田市に移住したいとか、白岡市に移住したいと考えるのではないのではないかなと思うのですね。もう少し広いエリアで場所を探しているのだと思うのですね。そういったニーズに応えるためにも連携していくということは大事な視点ではないかなと思っております。 　あとは梨というキーワードも出てきました。これは我々の会議の中でも議論

	に出ました。梨農家は非常に減っているということは事実としてあるのですが、いずれにしても県内有数の梨の産地ということで、蓮田の梨、白岡の梨、久喜の梨ということで売り出している訳です。そこのところを、例えば統一的なブランドを皆さんで考えて作って売り出していけば、もう少しブランド価値として埼玉の梨というものが売り込めるのではないかな、そのような発想もございますし、例えば梨農家さんをもう少し儲かる農業の形にするために6次産業化であるとか、農商工連携という部分で蓮田市だけではなくて3市でそのような特徴があるのであれば、3市で連携した取り組みの展開が出来るのではないか。または例えば梨を食材として使う食品加工業みたいな企業を誘致出来ればもっと占めたものだと思うのですね。そうすればそういった工場との連携の中で、かなり広がりが出て来ると思います。 　あとは昨日ちょっと有識者の先生に聞いた話なのですが、梨というのはいろいろな効能があるようなのです。食べるだけではなく、体に良い面が非常にあるというお話がございました。そういった特徴をもっと、梨を食べるだけではなく、健康食品的な形で何か活用して、そういったものを加工出来るような企業を呼び込むなどという展開も連携すると面白いのではないか、そのような発想もありました。いずれにしても私の視点としては、一つは、近隣の市町、同じ課題を抱えている市町との連携。もう一つは、例えば先ほど行田の蓮の話が出て来ましたけれども、テーマで連携するというのもあると思います。行田の古墳があったり、古代ハスがあったり、歴史的な資源があります。蓮田は黒浜貝塚という資源があって、そのようなところで繋いで連携をする、そのような取組みがあっても良いのではないかということです。非常に長くなりましたけれども以上でございます。 （中山会長） 　ありがとうございました。これは本当に現実的な視点で、明日からでも動き出さなければいけないような、凄く危機感があるお話をいただいてありがとうございます。一個ではできないことを連携すると出来ると、情報誌の発刊とか、ブランド、6次産業化というのは3市がまとまれば十分出来るのではないかというような感じが致しましたし、私共も梨が有名なのだから大学の学園祭で梨カレーとかそのようなものを作らないのと聞いたら、学生は、さっぱり梨について知らないというのですね。うちの大学の教員が市にもお願いに行ったら、いやそこまでちょっと手が回らないとお断りをされたというのがありましたけれども、やはり蓮田市はマンパワーが不足しているようですので、久喜、白岡も併せて、特に白岡さんは人間総合科学大学にも是非子ども大学に参加させてほしいなど今すごく積極的で、9月12日も白岡から来るのですけれども、そのように連携して現実に何か作り出して打ち出していくという方向にもう来ているのかなと窺えました。私共も来週から、今も連携して実際に動いていきたいと。明日の市民祭りにもどんどん参加して、現実に動いていくという段階に来ているという各委員のお話があって、私もそのように感じました。大分長くなって申し訳ないのですけれども、あと何かございますでしょうか。本当に貴重なご意見を各委員からいただきまして、これはもう本当にすぐ出来るかなと、実際に行っていかなければいけないなという段階に来ているなというふうに感じました。 　今日は本当に長くなって大変申し訳ない、私の議事進行が上手くいかなくて申し訳なかったですけれども、今回の会議におきまして委員の皆さんから賜ったご意見、ご提案につきましては、事務局のほうで十分検討させていきたいと思います。それでは長くなりましたけれども、会議の進行にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします

	ので宜しくお願いします。
4　その他	（田島調整幹） 　ありがとうございました。また多くの貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。それでは次第の4、その他と致しまして、事務局から連絡事項がございます。渡辺総合政策部長から申し上げます。 （事務局） 　貴重なご意見ありがとうございました。次回は人口ビジョン及び総合戦略の骨子をお示ししたいと考えております。総合戦略に掲げる事業については、今日いただいたご意見等も踏まえまして、検討していきたいと考えております。それと子育て中の方、子育て支援団体、そういった関係団体のヒアリング等につきましても、次回までには実施していきたいと考えております。日程につきましてはまた後日ご連絡したいと思います。宜しくお願い致します。 （田島調整幹） 　それでは以上をもちまして、本日の議事は全て終了致しました。閉会にあたりまして、淺田副会長から閉会のご挨拶をお願い致します。
5　閉会挨拶	（淺田副会長） 　皆様、本日は長時間にわたり、会議のほう大変お疲れ様でございました。本当に先ほど会長もおっしゃられておりましたが、非常に皆さんから貴重な意見をいただきまして、皆さんの意見だけでも素晴らしい総合戦略が出来るのではないかということを感じさせていただきました。新しい蓮田ブランドであったりとか、観光スポットであったりとか、農業体験であったりとか、素晴らしい意見を頂戴しましたので、次回骨子のほうで反映させていただければと思います。先ほどお出かけスポットという話がでましたけれども、明日は蓮田市民祭りがございます。市内商工業のテントも出て、B級グルメ等もあると思いますので、是非是非参加していただければと思います。 　それでは以上をもちまして第2回まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会します。お疲れ様でした。本日は大変ありがとうございました。